

みんなの知恵と力で日野の未来を拓こう



日野市勢要覧



ともに創ろう 心つながる夢のまち 日野

HINO CITY

～水とみどりを受け継ごう～



私たちのまち日野

日野市は、東京都のほぼ中央部に位置しており、市域は27.53km²、都内26市中6番目の広さで、多摩川と浅川の清流に恵まれ、湧水を含む台地と緑豊かな丘陵をもつ人口17万人超のまちです。

昭和初期から大企業を誘致し、工業都市となっている一方、かつて「多摩の米蔵」といわれたように農業が盛んなまちで、現在も米や野菜などの出荷があり、小・中学校の給食には地元の野菜が多く使われています。他にも梨、ぶどう、ブルーベリー、りんごなどの果物栽培も行われ、ブルーベリー、りんごは摘み取りもできます。

市内には、関東三大不動尊である高幡不動尊があり、年末年始や節分の豆まき、あじさい、紅葉の季節などには多くの参拝客が訪れます。そのほか市の南に位置する多摩動物公園などの観光施設は家族連れで賑わっています。

また、日野は新選組隊士の土方歳三や井上源三郎が生まれ育った「新選組のふるさと」であり、子孫が開館する資料館や名主の佐藤彦五郎の屋敷（日野宿本陣）が残されています。毎年5月には「ひの新選組まつり」が行われ、全国から新選組ファンが集まります。

現在、市では少子高齢化という背景の中で、福祉・医療・教育・都市基盤整備、産業振興を次の世代に引き継げるように、持続可能なまちづくりを進めているところです。引き続き日野に伝わる固有の文化を生かし、「みんなの知恵と力で日野の未来を拓こう」をスローガンに日野市の良さや地域の個性を伸ばすまちづくりを目指していきます。

Our Hometown Hino

Hino City, with a population of more than 170,000, is blessed with the clear streams of the Tama River and the Asa River, a plateau containing a rich aquifer, and green, rolling hills.

Hino is comfortably located almost at the center of Tokyo Metropolitan. The city measures 27.53km² in area and prides with

市章



(昭和38年11月3日制定)

日野市の市章は、日野の日の字を丸くして、炎のごとく燃えさかり発展していく様を象徴しています。

市の木 かし



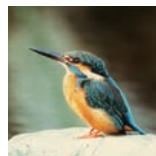
生態的に最も古い木で常に青々とした葉をつけています。古くから農家の高生垣や屋敷林として役立てられてきました。日野の自然植生の代表種であり、成長は遅いが環境を支える木として、着実に発展する日野にふさわしい木です。(昭和48年11月3日制定)

市の花 きく



日野に縁の深いカラノギクの可憐さが人の心を引きつけるなどの理由から市の花に選ばれました。近年市内でも、「ポットマム」をはじめ、園芸品種が盛んに栽培されています。(昭和48年11月3日制定)

市の鳥 カワセミ



くちばしが長く、体に比べ頭が大きく尾が短いことが特長。「鳥の宝石」といわれるほど美しい姿をしています。清流を好む鳥で、緑と清流のまちを目指す日野を象徴しています。(昭和58年9月12日制定)



the 6th largest land of the 26 metropolitan cities.

Hino has welcomed large enterprises since the early Showa era, and although the city became a center of manufacturing, Hino was known as the "Rice Granary of Tama" because of its rich agricultural production. Rice and vegetables are still commercially grown in the area, and local vegetables make up part of the school lunches in the local elementary and junior high schools. Pears, grapes, blueberries, apples, and other fruits are widely cultivated and there are orchards where the public can enjoy picking blueberries and apples.

Hino is famous for Takahata-Fudosen, one of the three major deities in Kanto, attracting many visitors at the beginning and end of the year, on Setsubun—the day of the "Bean-throwing Ceremony", and during those seasons marked by the blooming of hydrangeas and the changing leaves of fall. The nearby Tama Zoological Park and other tourist attractions are always bustling with families.

Hino is also historically famous as "the Hometown of the Shinsen-gumi (the Police Force of the Edo Government)" and two of the leaders of the Shinsen-gumi, Toshizo Hijikata and Genzaburo Inoue, grew up in the area. Hino also contained the residence (Hinojuku-Honjin) of the village head-chief, Hikogoro Sato, which is still standing. Their descendents open some related rooms to the public. The "Hino Shinsengumi Festival" is held every May and many Shinsengumi fans gather from across the whole country.

Today, in an aging society with declining birthrate, we are to make a sustainable city plan to be able to hand over welfare, medical care, education, infrastructure and industry development to our next generation.

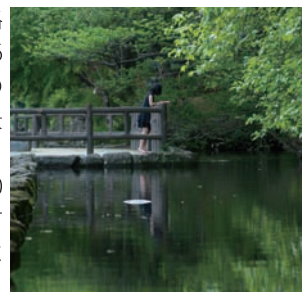
Keeping our unique culture in Hino and under the slogan "Create the future of Hino with citizen's wisdom and ability.", we will aim to develop our city and the local individuality.

日野市の特徴

「水都・日野 水辺のある風景50選」

～日野市の宝物を次の世代に引き継いでいきます

多摩川・浅川からひかれた農業用水路は市内を網の目のように流れ、延長116キロにも及びます。また、180カ所ほどの湧水地があり、その豊かな水のある風景は日野市の魅力の一つになっています。市では、「水都・日野 水辺のある風景50選」を選定し、その水辺の風景を日野市の宝物として、その価値を共有し、後世に残す取り組みを行っています。



交通～12の駅で、高い交通利便性

市内にはJR、京王線、多摩都市モノレールの3線が走っています。JR中央線2駅、京王線5駅、多摩都市モノレール5駅で計12の駅があり、鉄道網はかなり充実しています。都心とは約1時間でつながり、通勤や通学に便利で、典型的な都市近郊のベッドタウンとして発展しています。



農業～「農業基本条例」で都市農業を守ります

全国初の「農業基本条例」を制定し、援農ボランティアによる農業者支援や全小・中学校への学校給食地元野菜等提供事業など、農業者と市民の距離の近い、顔の見える「地産地消」を推進しています。また、新たな農産物栽培や他産業との連携による付加価値の高い農産物加工品開発を進め、次代につなぐ「魅力ある日野の農業」を目指しています。



撮影 野村明雄

春

空が広い日野、その下、川も丘も淡い彩り

平山浅川土手



枯れることない水の郷、そよぐ風は涼しく優しく

夏

四季の移り変わり 新選組のまち日野、名所など

「水」がはぐくむ緑豊かな歴史のまち日野。
日野の魅力を再発見できる、名所、
観光スポットなどをご紹介します。

多摩動物公園（程久保7-1-1）

国内でも数少ない無柵放養式の動物公園で、広い敷地を散策しながらゆったりと動物を見ることができます。園内は動物の行動をより楽しめるように工夫されており、オランウータンのスカイウォークも人気です。



百草園（百草560）

江戸時代に松連寺の庭園として造られ、文化・文政の頃には多くの文人墨客に愛されました。早春はミツバツツジ、初夏はアジサイ、秋は紅葉、冬はロウバイなど、四季の花と木を楽しめます。特に梅の時期の眺めは圧巻。2～3月には梅まつりが開催され、都内有数の梅の名所として親しまれています。



高幡不動尊（高幡733）

真言宗智山派別格本山、高幡山明王院金剛寺は、古来関東三大不動の一つとして親しまれてきました。高幡不動尊は土方歳三の菩提寺であり、大日堂では、毎年5月の命日に法要が行われています。新選組をたたえた殉節両雄之碑・土方歳三の像が境内にあります。



秋

かさこそ、落ち葉を踏んで、林の移り色に浸ります

南平丘陵公園

凜として、息をのむ、感動の一瞬

冬

新選組のふるさと日野

新選組副長・土方歳三、六番隊隊長・井上源三郎、物心共に新選組を応援し続けた佐藤彦五郎の出身地であり、近藤勇、沖田総司らが集った日野。佐藤彦五郎が自宅に開いた天然理心流の道場で剣術の稽古に励んだ彼らは、後に新選組となり、歴史にその名を刻み込む。

当時、日野の人々は佐藤彦五郎を中心に新選組の活動を支援し、新選組消滅後も隊士たちとの交流は続いた。現在も日野には数多くの書簡や遺品が残されており、人々は誇りを持って隊士たちのことを語り継ぎ、多くの資料を守り伝えている。

日野宿本陣 (日野本町2-15-9)

都内で唯一残る江戸時代に建てられた本陣建物です。佐藤彦五郎が建てた建物で、文久3年(1863)に上棟しました。



- 休館日: 月曜日、年末年始
- 開館時間: 9:30~17:00 (入館は16:30まで)
- 入館料: 大人200円、小人50円
- 電話: 042-586-8808

新選組のふるさと歴史館 (神明4-16-1)

新選組と新選組が活動した幕末に焦点を当てた歴史館です。



- 休館日: 月曜日、年末年始
- 開館時間: 9:30~17:00 (入館は16:30まで)
- 入館料: 大人200円、小人50円
- 電話: 042-583-5100

土方歳三資料館 (石田2-1-3)

展示物には、歳三が使った鉢金(額を守る鉄板)、手紙、歳三の愛刀「銘和泉守兼定(いずみのかねさだ)」などがあります。



- 開館日: 第1・第3日曜日 (平日は応相談)
- 開館時間: 12:00~16:00
- 入館料: 大人500円、小中学生300円
- 電話: 042-581-1493

井上源三郎資料館 (日野本町4-11-12)

井上源三郎の生家にある土蔵を改装した資料館です。展示物には、天然理心流剣術免許などがあります。



- 開館日: 第1・第3日曜日 (平日は応相談)
- 開館時間: 12:00~16:00
- 入館料: 大人500円、小中学生300円
- 電話: 042-581-3957

佐藤彦五郎新選組資料館 (日野本町2-15-5)

日野宿名主佐藤彦五郎の資料を公開している資料館です。近藤勇、土方歳三、沖田総司を始め、隊士たちとの絆の深さを物語る品々を展示しています。



- 開館日: 第1・第3日曜日 (平日は応相談)
- 開館時間: 11:00~16:00
- 入館料: 大人500円、小中学生300円
- 電話: 042-581-0370

八坂神社 (日野本町3-14-12)

本殿は寛政12年(1800)に建造されたもので、精巧な彫刻が組み込まれた神社建築として市指定文化財になっています。佐藤道場の天然理心流剣士たちが、安政5年(1858)に、日野宿鎮守である八坂神社へ剣術の上達を願って奉納した額があります。



石田寺 (石田1-1-10)

土方歳三の墓所があります。5月11日は土方歳三の命日。5月の第2日曜日には「歳三忌」が行われます。現在でも歳三をしのぶ人々が訪れ、花が耐えることがありません。



大昌寺 (日野本町2-12-13)

慶長7年(1602)創建。新選組最大の支援者であり、明治11年(1878)に初代南多摩郡長になった佐藤彦五郎と妻ノブ(歳三の実姉)の墓所があります。また日野宿の時の鐘などがあります。



宝泉寺 (日野本町3-6-9)

元徳年間(1329~32)の開創。新選組六番隊隊長で、鳥羽伏見の戦いで戦死した井上源三郎の墓と顕彰碑があります。そのほか、持ち上げ観音、金丸四郎兵衛の墓などもあります。



2020
プラン

ともに創ろう 心つながる夢のまち

～水とみどりを受け継ごう～

日野

持続可能なまちづくりを進め、次の世代へ水とみどりのまちを残していくことができるよう、市民と市の協働によるまちづくりの指針として、平成23年3月に2020プラン（第5次日野市基本構想・基本計画）を策定しました。

2020プランでは、まちづくりの基本理念を「①市民が主役のまち」「②水とみどりのまち」「③つながりを大切にす
るまち」「④持続可能なまち」とし、新たな時代に対応した
将来都市像を「ともに創ろう 心つながる 夢のまち
日野～水とみどりを受け継ごう～」としました。また、将来
都市像の実現に向け、以下の7つの柱を設定し、市民と
市の協働のもとで総合的かつ計画的にまちづくりを推進
していきます。



① 参画と協働のまち

- 市政やまちづくりに関する情報を分かりやすく提供するなど、自立した市民との協働により、まちづくりについて考えることのできる環境を整えます。
- 地域のだれもがお互いを尊重し、支え合う地域社会を実現できるよう、コミュニティー意識の醸成、男女平等などの理念の普及に取り組みます。また、コミュニティーの核となる自治会、ボランティア団体やNPO（市民活動団体）などを積極的に育成・支援します。
- 市民から信頼される市となるよう、市民の視点で仕事に取り組み、主体的に行動できる職員を育成します。
- 経営的視点に立った効率的で質の高い行政運営を展開します。また、不断の行財政改革に取り組むとともに、既存の公共施設の老朽化対策、維持管理、更新および転用、統廃合などを総合的に進め、持続可能な財政運営に努めます。



基本施策名

- 公民協働の仕組みと場づくり
- 心触れ合うコミュニティーづくり
- 市民とのコミュニケーションの強化・充実
- 男女平等のまちづくり
- 人権と平和を尊重したまちづくり
- 経営的視点に立った行政運営
- 持続可能な財政運営
- 職員の育成と機能的な組織運営
- 行政財産の適正な管理と普通財産の有効活用
- 便利で快適な窓口・市民サービス



② 子どもが輝くまち

- 安心して子どもを生み育てられるよう、情報提供、相談体制の充実や、多様な保育サービス、子育て支援サービスを提供します。また、地域の人材や組織を活用し、世代を越えて地域ぐるみで子育てを支援する体制を構築します。
- 日野市子ども条例にのっとり、全ての子どもが自分らしく、健全に育つことを地域ぐるみで支えられる子育て環境を整えます。また、児童虐待やいじめなどで苦しんでいる子どもを見逃さない仕組みを充実します。
- 子どもたちが、楽しく意欲的に安全に学べるよう、教育内容や施設の充実を図るとともに、学校・家庭・地域の連携を深め、子どもたちが家族や郷土を愛し、自ら学び、心豊かに成長できる教育環境を整えます。



基本施策名

- 親が育ち子どもも育つまちづくり
- 人のつながりを生かした育て合うまちづくり
- 次世代のひのっ子を育てるまちづくり
- 発達に遅れや偏りのある子どもの支援
- 安全で安心な教育環境の整備
- 一人ひとりを大切にする教育支援
- 地域に根ざした特色ある学校づくり・時代とともに歩む教育
- 生きる力を育み、楽しく意欲的に学べる学習環境の創出



3

健やかでともに支え合うまち

- 市民一人ひとりがライフステージに応じた心と体の健康づくりに取り組めるよう、意識づくりや検診などの機会を提供します。
- 市立病院を核として適切な医療が受けられる体制を整えます。
- だれもが住み慣れた地域で、安心して暮らせる社会の実現に向け、施設整備などのハード面、そして、相談体制の充実、介護予防および介護、社会参加支援、就業支援などのソフト面からの支援を行います。また、地域福祉活動の拠点づくり、地域福祉活動の担い手育成などを通じて、市民がお互いに支え合う福祉活動を促進します。
- 真に支えが必要な市民に対して、さまざまなセーフティネットによる最低限の支援を行います。

基本施策名

- ころとからだの健康づくり
- 地域医療体制の充実
- 市立病院の充実
- とともに支え合う環境づくり
- 生活の安定と自立への支援
- 雇用支援と勤労者福祉の充実
- 障害者の生活・自立の支援
- 高齢者の生きがいある生活の支援

日野 ～水とみどりを受け継ごう～



4

日野人(ひのびと)・日野文化を育てるまち

- さまざまな世代の人が生涯学習に取り組めるよう、図書館や公民館などの生涯学習関連施設、他の集会施設などを利用・活用し、地域人材の発掘・育成・活用を図ることで魅力的な学習が行える場や機会を提供し、それぞれの学習活動を支援します。また、学びを通して、豊かな人間関係、地域づくり、まちづくりにつなげる仕組みづくりを進めます。
- だれもがスポーツを通じて健やかな心と体をつくれるよう、スポーツ施設を充実するとともに、講習会や教室、イベントなどを開催し、スポーツに取り組む市民の裾野を広げます。
- 文化、芸術、歴史などに触れ合う場や機会を提供し、地域の誇りやふるさとへの愛着を育みます。また、国内外の垣根を越えて交流の輪を育み、日本人と外国人がお互いの考えや文化・習慣を尊重し合える社会を築きます。



基本施策名

- 生涯学習活動の支援
- スポーツの振興
- 歴史・文化の継承と活用
- 郷土資料の継承と活用
- 図書館機能および施設の充実
- 公民館での学習活動の支援と施設の充実
- 芸術・文化の振興
- グローバルな社会づくり



5

自然と調和した環境に優しいまち

- 美しいふるさとを次代へ継承するため、低炭素型社会の構築を推進するとともに、市民一人ひとりが環境に優しいライフスタイルを心掛けられるよう、情報提供や意識啓発などに取り組みます。また、日野市の財産である水と緑の保全・再生・活用に努めるとともに、多様な生物の生息・生育環境を守ります。
- 生活排水や雨水の処理を適切に行い、市民の暮らしや自然環境を守ります。
- ごみゼロ社会の実現に向けて、ごみの減量化・資源化を推進するとともに、ごみ処理施設の更新を行い、廃棄物を適正に処理し、環境に優しい暮らしを支えます。



基本施策名

- 地球環境政策の推進
- 自然環境の保全
- ごみゼロ推進のまちづくり
- 廃棄物の適正処理
- 生活排水および雨水処理の施設整備
- 生活環境の保全

日野 ～水とみどりを受け継ごう～



6 安全で安心して暮らせるまち

- 防犯対策や安全対策として、防犯パトロールや講習会、相談体制を充実します。また、地域ぐるみで自主的な防犯・安全活動が積極的に行われるよう、防犯・安全に対する意識、見守りや助け合いの心を醸成するとともに、地域における防犯・交通安全活動、消費生活の安全のための活動を支援します。
- 防災対策、消防力の強化に取り組むとともに、市民自身が防災力を高められるよう、情報提供や防災に関する意識や知識を高める啓発活動を行うとともに、自主防災組織など地域主体の災害対策活動を支援します。また、いざというときの危機管理体制を確立し、安全なまちづくりに取り組みます。
- 防犯や防災、消費生活の安全について、地域で積極的な声かけや相談ができる体制づくりに努めます。
- 高齢者や障害者など、いわゆる災害弱者への支援体制を自治会などのコミュニティとともに整備します。

基本施策名

- 事故や犯罪などから市民を守る
- 災害から市民を守る



7

地域の魅力を生かした活力あるまち

- 貴重な自然や歴史的・文化的な景観の保全、そして防災に配慮しながら、道路、公園、公共施設などを計画的に整備します。
- だれもが安全で快適に暮らせるよう、ユニバーサルデザインの考え方に基つき、鉄道・バスなどの公共交通の利便性を高めるとともに、安全で快適な道路や交通拠点の整備を推進します。また、同居・近居も含めた三世代交流のまちづくりの推進、丘陵部における公共交通の充実など、超高齢社会に対応したまちづくりを推進します。
- 市街地基盤の整備を進め、良好な住宅環境を構築するとともに、農業、商業、工業、サービス業のバランスが取れたまちづくりを進めます。
- 自然環境や生活環境への配慮のもと、既存産業の振興に努めるとともに、新たな成長産業の創出・育成に努め、雇用機会を拡大します。また、魅力ある商業・サービス業・農業を振興し、まちの活性化を図ります。
- 日野市の工業発展を引き続き支援し、あわせて企業跡地の活用（誘致を含める）についても推進していきます。
- 新選組や自然と歴史・文化を生かした観光産業の振興に努めます。

基本施策名

- 将来を見据えた都市環境づくり
- 利用しやすい交通環境づくり
- 安全で快適な道づくり
- 商工業の振興
- 農業の振興
- 自然と文化、新選組を生かした観光産業の振興

ひのごよみ

Festivity in Hino Style

日野市には、神社や寺院が多いために古くからの伝統的な祭り行事がたくさんあります。中でも関東の三大不動に数えられている高幡不動尊では、年間を通してさまざまな祭事が行われており、全国からたくさんの人が訪れます。

季節に咲き競う花たちも彩りを添えてくれます。2月の梅から、桜、アジサイ、菊、モミジ、マンサクの花など、それぞれの装いで市民の目を楽しませてくれ、ゆかりの神社や寺院、名所も存在します。

市民の手により運営されるイベントや行事もたくさん開催されています。スポーツ大会やレクリエーション大会も年を追うごとに参加者も増えており、ひの新選組まつりや産業まつりは市外から来る見学者にも人気があります。

季節の祭りや行事は、私たちの暮らしに彩りやうるおいを与えてくれます。太鼓や笛の音が聞こえてくると心も躍ります。



1月

出初式(多摩川グラウンド)
日野市成人式
初不動大祭(高幡不動尊)(28日)
日野七福神めぐり(市内七寺院)
伸びゆく日野市写真コンクール写真展示

2月

節分(高幡不動尊)(3日)
お雛さまを愛でる会(日野宿本陣)
ひの新選組まつり隊士募集 上旬

3月

スプリングフェスタ日野(日野中央公園)
梅まつり(京王百草園)

4月

平山季重まつり(平山城社公園周辺)
サクラの集い(多摩川土手)
郷土資料館まつり(郷土資料館)
新緑まつり(京王百草園)4月下旬～5月上旬

5月

ひの新選組まつり(市内各所)
ひのよさこい祭鳴子連募集 上旬
水防訓練(浅川)下旬
歳三忌(石田寺)(11日)
公民館まつり(中央公民館)

6月

日野市民ふれあい福祉まつり(日野中央公園)
ガーデニングコンテスト(市役所)
あじさいまつり(高幡不動尊)

7月

ひのよさこい祭(多摩平)
市民プール

8月

ひのアートフェスティバル(仲田の森蚕糸公園)

9月

日野八坂神社例大祭
豊田若宮神社例大祭

10月

日野市民スポーツレクリエーションフェスティバル
こどもまつり(日野中央公園)
健康フェア&くらしのフェスタ
菊まつり(高幡不動尊)
総合防災訓練(市内全域)

11月

学園祭(実践女子大学・同短期大学、
首都大学東京日野キャンパス、明星大学)
日野市表彰式(3日)
日野市産業まつり(日野中央公園)
もみじ灯路(高幡不動駅周辺)
万燈会(高幡不動尊)
紅葉まつり(京王百草園)
もみじまつり(高幡不動尊)

12月

歳末たすけあいバザー
イルミネーション(市役所前市民プラザ)中旬
緑の写真展(市役所)(日野市社会福祉協議会)

時を訪ねて

古くから、多摩の要衝として栄えてきた日野。
長い歴史をたどると、様々な日野の姿が見えてきます。
日野のあゆみをふりかえってみましょう。

時代区分			日野(多摩)中心のできごと
先土器	約1万2500年前		日野台地で狩猟をしながら、移動生活をする人々が現れる
縄文	前期		日野台地などに人々が定住し始める
	中期		日野台地や多摩丘陵に集落が形成され始める 日野の沖積層でも人々の生活が始まる
	後期		
弥生	末期		神明上や平山に集落ができる
古墳	前期		西平山、吹上などに集落ができる
	後期		沖積地の開発が盛んになり、落川などに大規模な集落が作られる 七ツ塚、平山などに古墳が作られる 台地のはげに横穴古墳が作られる このころ、武蔵国ができる
奈良			武蔵国から絹を調として納め始める 武蔵国分寺完成
平安		833	武蔵国に「悲田処」が作られる ▲平山古墳(古墳時代)
		861	武蔵国の各郡に検非違使がおかれる このころ武蔵国に牧が作られる
		1156	保元の乱における源義朝の軍勢に西党平山氏が従軍する
		1159	平山季重が源義朝に属し、平治の乱の合戦に従軍する
		1163	10月13日刻銘の経筒が、百草村新堂谷戸に埋納される
		1165	9月17日刻銘の経筒が、百草村新堂谷戸に埋納される
		1180	源頼朝が常陸佐竹秀義の金砂城を攻撃し、平山季重が従軍する
		1184	平山季重が源義経に属し、一の谷の合戦に従軍する
		1186	源頼朝が武蔵国真慈悲寺(百草園とその周辺)を再興する
鎌倉		1250	「武州多西吉富真慈悲寺」の背銘のある銅造阿弥陀如来坐像が鋳造される
		1271	市内に現存する最古で最大の板碑造立される
		1273	5月20日刻銘の銅造鐙口(金剛寺蔵、国重要文化財)が鋳造される
南北朝		1335	高幡山上の不動堂が大風で倒壊する
		1339	高師冬に從い、日野市城土測郷に所領を持つ山内経之が常陸合戦に出陣する
		1342	高幡不動堂、山下の現在地に再建される
室町		1455	足利成氏、上杉顕房と立川が原で戦う。上杉方の上杉憲顕敗れて高幡不動に逃れ討ち死にする
戦国		1580	北条氏照が三沢衆土方弥八郎を滝山城下に待機させ、出陣の用意を命じる
		1586	北条氏照が日野惣郷に竹木伐採を禁じる
		1588	北条氏照、三沢衆に八王子城の普請を命じる
		1590	八王子城・小田原城落城、北条氏滅亡 豊臣秀吉が、三沢、落川、高幡、河辺7か村に禁制を下す 徳川家康、関東入国に際し、八王子に大久保長安を代官頭とする代官所を設ける
江戸		1605	大久保長安、日野を宿場と定める
		1684	日野宿助郷37カ村が定まる 日野渡船場、日野宿の経営となる
		1685	多摩川の川運上が定められ、御茶帖の上納が行われる
		1723	高倉原の新田開発が行われる
		1809	大田南畝(蜀山人)が勘定奉行配下の役人として多摩川巡視中に日野宿名主佐藤彦右衛門方に立寄り「蕎麦の記」を記す
		1817	八王子や日野本郷新田に隕石が落ちる
		1829	日野宿を寄場として組合村(日野宿組合)が組織される
		1844	日野宿組合の村々が昌寺の時の鐘料を払う事が決まる
		1846	日野の渡しで渡船が転覆、30人余が流死
		1849	日野宿の本陣・脇本陣が大火のため焼失する



▲平山古墳(古墳時代)

時代区分		日野(多摩)中心のできごと	
江戸		1863	幕府が関東の農兵取り立てを実施し、日野宿組合農兵隊ができる 土方歳三ら、京都において新選組を組織する
		1864	新選組「池田屋事件」で名をあげる
		1866	武州一揆おこる。日野宿組合農兵隊が八王子農兵隊とともに築地河原で撃退する
明治	明治1	1868	甲陽鎮撫隊が勝沼の戦いで敗れる 日野宿をはじめ、現在の日野市域の村々が、神奈川県の管轄となる
	明治2	1869	土方歳三、箱館で戦死
	明治5	1872	日野宿組合郷学校が開校する(日野学校、高幡学校)
	明治6	1873	日野、下田、潤徳、種徳(平)学校開設
	明治7	1874	豊田学校開設 日野郵便局開業
	明治9	1876	昭景学校開設
	明治11	1878	郡区町村編制法の施行により、日野市域は南多摩郡となる。郡役所は八王子に設置され、初代郡長に日野宿の佐藤俊正が就任する
	明治15	1882	森久保作蔵、五十子敬斎らが自由党に入党する この頃、自由民権運動がさかになる
	明治17	1884	困民党が蜂起し、日野にも影響が及ぶ
	明治20	1887	百草園開園
	明治22	1889	甲武鉄道、新宿－八王子間開通 市制町村制施行により、日野市域に日野宿・桑田村・七生村の一宿二村が誕生
	明治23	1890	日野駅開設
	明治26	1893	三多摩が東京府へ移管される。日野宿が日野町と改称される
	明治34	1901	豊田駅開設 日野町と桑田村が合併して日野町となる
	明治39	1906	甲武鉄道が国有化され、中央線となる
	明治44	1911	林丈太郎が、平山陸稲を発見する
大正	大正2	1913	豊田・川辺堀之内耕地整理事業完成 浅川に平山橋が架設
	大正3	1914	多摩川の大洪水。四谷下(鉄橋下)の堤防決壊。氾濫をおこす
	大正5	1916	甲州街道沿線及び四谷地区に電灯がつく
	大正7	1918	下田・新井・石田・宮・堀之内・豊田・河原の地区に電灯がつく
	大正10	1921	日野郵便局で、電信電話業務開始
	大正12	1923	郡制廃止により、南・北・西多摩各郡役所が廃止となる 関東大震災 浅川に高幡橋が完成する
	大正14	1925	玉南電気鉄道(株)、府中－東八王子間営業開始
昭和	昭和1 (大正15)	1926	日野橋開通 立川－高幡不動間、バス運転開始
	昭和3	1928	日野郵便局で電話交換業務開始
	昭和7	1932	七生村が経済更生指定村となる
	昭和11	1936	平山橋開通
	昭和12	1937	小西六写真工業日野分工場が操業開始 中央線複線化、日野新駅開設
	昭和14	1939	七生村に東京府拓務訓練所が開設
	昭和16	1941	富士電機東京工場設立
	昭和17	1942	日野重工業(日野自動車工業)設立
	昭和18	1943	東京都制施行
	昭和20	1945	4月4日、空襲により上田・宮・下河原で爆死者あり 8月3日、八王子大空襲
	昭和21	1946	高幡山金剛寺不動堂仁王門が国の重要文化財に指定
	昭和22	1947	日野中(一中)・七生中が開校 カスリン台風により多摩川大出水
	昭和23	1948	日野町警察署・日野町消防署発足
	昭和25	1950	多摩計器(オリエント時計)設立
	昭和29	1954	日野町役場庁舎(市役所旧庁舎)完成
	昭和30	1955	七生村役場焼失。七生村診療所を臨時役場とする
	昭和33	1958	日野町と七生村が合併して日野町となる 多摩平団地への入居が始まる 多摩動物公園開園
	昭和34	1959	衛生処理場完成
	昭和35	1960	日野町上水道給水開始 平山台(現在の旭が丘)地域に工場進出が始まる
	昭和36	1961	日野町立日野国民健康保険病院(現日野市立病院)設立



▲日野・豊田新駅開通式(昭12)

時代区分			日野(多摩)中心のできごと	
昭和	昭和38	1963	一番橋開通	
			日野町、市制施行(全国で559番目)	
			アメリカ、レッドランズ市と姉妹都市提携	
			市章制定	
	昭和40	1965	市立図書館開館(移動図書館ひまわり号運行開始)	
			ハヶ岳「大成荘」開設	
			字名が廃止になる	
			市民プール開設	
	昭和41	1966	中央公民館・福祉センター完成	
	昭和42	1967	中央自動車道八王子ー調布間開通	
	昭和44	1969	日野保健所開設	
			日野社会教育センター開館	
	昭和46	1971	カドミウム公害対策協議会設立	
			ヒノクジラの化石発見	
			日野市第一次基本構想策定	
			平山児童館開館	
	昭和47	1972	日野消防署が現在地に移転	
	昭和48	1973	中央図書館開館	
			市の木(かし)・市の花(きく)制定	
	昭和49	1974	市営水道事業が東京都に統合される	
			日野市土地開発公社設立	
			清流条例施行	
			高幡橋開通	
	昭和51	1976	市役所新庁舎完成	
	昭和52	1977	市役所新庁舎完成	
			市役所新庁舎完成	
			市役所新庁舎完成	
	昭和54	1979	南平体育館開館	
			(社)日野市高齢者事業団(現(社)日野市シルバー人材センター)発足	
			七生公会堂開館、七生支所を七生公会堂1階に移転	
			駒形の渡し舟開設(夏季)	
	昭和55	1980	高幡図書館・日野図書館開館	
			日野中央公園開園	
			金剛寺五重塔が完成	
			日野駅ホーム下に跨道橋開通	
	昭和56	1981	日野駅ホーム下に跨道橋開通	
			日野市老人憲章制定	
	昭和57	1982	市民ギャラリー開館	
			高幡不動尊が新東京百景第1位に選ばれる	
			日野市第二次基本構想策定	
			核兵器廃絶・平和都市宣言を採択	
	昭和58	1983	婦人センター開設	
			日野市歌制定	
			市の鳥(カワセミ)制定	
			日野市民憲章制定	
	昭和59	1984	日野駅ー市役所ー豊田駅間のバス路線開通	
			多摩動物公園にコアアラが来る	
	昭和60	1985	市民会館開館	
			住民登録事務電算化	
			つばさ学園開園	
	昭和61	1986	勤労・青年会館開館	
	昭和62	1987	市民の森スポーツ公園開園	
			クリーンセンター新焼却施設完成	
			日野市環境緑化協会発足	
			はくちょう学園開園	
	昭和63	1988	金剛寺不動明王像など東京都指定文化財となる	
			生活・保健センター開設	
平成	平成元 (昭和64)	1989	立日橋開通	
			南平丘陵公園開園	
			東部会館開館	
			ふるさと博物館開館	
	平成2	1990	特別養護老人ホーム「浅川苑」開設	
			多摩川の河床からゾウのキバ化石が発見される	
			百草図書館開館	
	平成3	1991	乗鞍高原「日野山荘」開設	
	平成4	1992	万願寺歩道橋(ふれあい橋)開通	
			浅川スポーツ広場完成	
	平成5	1993	ハヶ岳高原「大成荘」改装オープン	
			防災情報センター開設	
	平成6	1994	日野市・多摩市・稲城市を管轄する日野税務署開設	
	平成7	1995	国土庁より日野市が「水の郷」に選ばれる	

時代区分			日野(多摩)中心のできごと	
平成	平成8	1996	日野市環境基本条例制定	
			日野市第三次基本構想策定	
	平成9	1997	建築指導行政が市に移管	
			新日野市商工会館落成	
	平成10	1998	鳥と緑の国際センター開設	
			日野税務署が新庁舎で業務開始	
			日野市個人情報保護条例施行	
			日野市立福祉支援センター開設	
	平成11	1999	日野市農業基本条例制定	
			府中四谷橋開通	
			日野市ホームページ開設	
			市民課豊田駅連絡所開設	
	平成12	2000	ひの市民大学開校	
			多摩都市モノレール全線開通	
			リサイクル推進センター開設	
			ごみ収集用ボックス廃止、戸別収集制に変更	
	平成13	2001	ISO14001の認証を取得	
			日野市第四次基本構想策定	
			東部子ども家庭支援センター開設	
			日野市ファミリーサポートセンター開設	
	平成14	2002	日野市男女平等基本条例を制定	
			夢が丘小(高幡台小・程久保小統合)開校	
	平成15	2003	新日野市立病院開設	
			一番橋新設開通	
	平成16	2004	石田大橋開通	
			「新選組フェスタin日野」を開催	
	平成17	2005	多摩平の森ふれあい館開設	
			郷土資料館開館	
	平成18	2006	環境情報センター「かわせみ」開設	
			しごとサポートひの開設	
			ドッグラン開設	
			平山小(平山小・平山台小統合)開校	
	平成19	2007	日野市まちづくり条例施行	
			国道20号日野バイパス全線開通	
	平成20	2008	七生支所が京王高幡ショッピングセンター内に移転	
			日野町・七生村合併50周年	
			子ども家庭支援センター開設	
			平山季重ふれあい館開設	
	平成21	2009	平山小新校舎完成	
			平山台健康・市民支援センター開設	
			日野市ユニバーサル推進条例を制定	
			基幹型児童館あそびバれっどあさひがおか児童館、あそびバるへさかえまち児童館開設	
	平成22	2010	柴町こよう館開設	
			日野市みんなですすめる食育条例を制定	
			日野第一中学校新校舎完成	
			市民会館の愛称が「ひの煉瓦ホール」に決定	
	平成23	2011	緑橋新橋部が開通	
			一番橋通りの南平立体が開通	
			東日本大震災おこる	
			健康サポートルーム「輝」開設	
	平成24	2012	第5次基本構想策定	
			市民の森ふれあいホール開館	
			日野都市計画道路3・4・14号線(一番橋通り)工事完了	
			日野都市計画道路3・4・8号線(都道淵上日野線)開通	
	平成25	2013	七ツ塚ファーマーズセンター開設	
			市制施行50周年式典・記念祭開催	
			第68回国民体育大会(スポーツ祭東京2013)開催	
			小島善太郎記念館が開館	
	平成26	2014	日野都市計画道路3・4・11号線(新川崎街道)開通	
			小型家電・金属類の資源物回収開始	

日野市民憲章

昭和58年1月1日制定

わたくしたち日野市民は、多摩川・浅川につづく平野と丘陵の自然循環に恵まれたこのまちを、生活の中のふるさとと考え、みんなのしあわせのためにこの市民憲章を定めます。

- 1 元気に働き いきいきとして 心ゆたかなまちをつくりましょう
- 1 手をつなぎ ともに健康で 明るいまちをつくりましょう
- 1 自然を守り 緑と清流と太陽の 美しいまちをつくりましょう
- 1 人を大切にし 弱い人にも子どもにも 思いやりのあるまちをつくりましょう
- 1 文化をつちかい うるおいのある 平和なまちをつくりましょう



Hino Civic Charter

Hino residents proclaim the Hino Civic Charter to ensure that the residents are happy living here. It is also drawn to think of Hino, a place blessed with the natural galore of plains and hillocks that stretch from Tama and Asa rivers, as the hometown of our daily living.

- Let's create a hearty and comfortable city that is energetic and a place to enjoy working.
- Let's create a healthy and happy city by working in harmony.
- Let's create a beautiful city of greenery, clean water and bright sun, by protecting nature.
- Let's create a friendly city that is considerate to people and kind to children and the weak.
- Let's create an affluent and peaceful city that cultivates the pride of local culture.

日野老人憲章

昭和57年1月1日制定

日野市民は、すすんで老人を理解し、老人の生きがいのある日常生活を保障するため、次のとおり老人憲章を定める。

- 1 老人は、長く社会につとめた先輩として、ひろく市民から敬愛される。
- 2 老人は、家庭と社会の大切な一員として、手厚く遇される。
- 3 老人は、家庭と社会から、健康と明るいくらしが守られる。
- 4 老人は経験や能力を社会に役立てるよう、その機会が設けられる。
- 5 老人は、健康と生きがいをつくるため、社会参加の道が開かれる。



Hino Senior Citizen's Charter

The following Hino Senior Citizen's Charter was drawn to understand the needs of senior citizens and to protect their right to quality of life in daily living.

- Seniors shall be widely respected and loved by all as a wise person who made our society better.
- Senior shall be carefully protected as an invaluable member of the family and society.
- Seniors shall be protected of their healthy and happy living through the support of the family and society.
- Seniors shall be provided the opportunity to share their experience and skills in society.
- Seniors are given opportunities of social participation to remain healthy and to enjoy quality of life.

日野市核兵器廃絶・平和都市宣言

昭和57年10月8日議決

巨大量の核兵器は、米ソ両国の戦略兵器削減交渉などをもってしても、もはやその拡大を止められない事態となっている。ひとたび核兵器が使用されることになれば、その結果は全人類とその文化の滅亡であることはいうまでもない。

日野市は、核兵器が地球上から姿を消す日まで、その廃絶を叫び、平和が市民生活の基本であるとの理念のもとに、ここに日野市が核兵器廃絶・平和都市であることを宣言する。

Hino City Proclaims Abolishment of Nuclear Arms and Promises to be a Peaceful City.

There are so many nuclear arms existing in our world that it would not be enough to stop the growth in number with only the Strategic Arms Reduction Talks (START) negotiated between the U.S.A. and Russia.

If nuclear arms are ever used, it will have devastating affects on all mankind and destroy modern civilization that we enjoy today.

Hino City will continue to shout for abolishment of nuclear arms until the last piece is eliminated from the earth. The city is convinced that peace is the basic right in daily living. Thus, the city hereby loudly proclaims abolishment of nuclear arms and promises to be a Peaceful City.

男女共同参画都市宣言

平成10年9月28日議決

わたくしたちのまち日野市は
一人ひとりが 男女平等のもとに
互いの個性と能力を尊重し
豊かに暮らせる社会をめざして
ここに男女共同参画都市を宣言します

- 1 互いに地域で支え合う 安心して暮らせるまちをめざします
- 1 家事・育児・介護・仕事を分かち合う 共同参画のまちをめざします
- 1 互いに生き方を理解し合う 自立と共生のまちをめざします
- 1 互いの人権を認め合う やさしい平和なまちをめざします

Proclamation of a City that Promotes Participation of Both Men and Women

Our hometown, Hino City

Is a place where each and every individual

Backed by the ideals of equals rights for men and women

Mutually respect personal attributes and potential

In hope to create an affluent and comfortable society

Here, is our "Proclamation of a City that Promotes Participation of Both Men and Women"

- Seeking to create a safe and comfortable hometown in which the community mutually supports each other.
- Seeking to create a hometown that promotes joint participation to share housework, child rearing, nursing care and work.
- Seeking to create a hometown that is both independent and symbiotic, and a place where there is mutual respect for each others lifestyles.
- Seeking to create a hometown that is gentle and peaceful, and mutually respects human rights.



国際交流

日野市では、国際平和を視野においた国際交流親善を目的にアメリカ合衆国のレッドランズ市との間で、姉妹都市提携を昭和38年に締結しています。現在、両都市間では相互訪問による文化交流などが行われています。また、平成5年に設立された日野市国際交流協会は、外国人と市民との交流活動や在住外国人への支援活動を行っています。



International Exchange

Hino City takes world peace seriously. As the first step toward actualization of this goal the city endorsed sister ties with Redlands City, USA in 1963 with international exchange and friendship in mind. Today, there are many cultural exchange programs enforced between both cities. The Hino City International Exchange Association founded in 1993 is an organization that provides exchange activities between foreigners and residents, as well as support the needs of foreign residents.

日野市歌

昭和58年1月1日制定
日野市中学校教育研究会 音楽部会 作詞・作曲

1. みどりの街を わが日野と

ほこれる胸の 豊かさよ

恵みの幸を 踏みしめて

あしたに生きる 日野のわれら

2. 平和を思う ひとびとの

確かな声は 満ち満ちて

心にかよう ぬくもりを

手と手でつなぐ 日野のわれら

3. 脈打つ多摩の 水音に

思い出たどる なつかしさ

流れが清く あるように

願いは同じ 日野のわれら



日野市勢要覧

発行日 平成25年(2013)9月
編集・発行 日野市 企画部
市長公室 広報担当
制 作 NPO法人 サイバー日野

〒191-8686 日野市神明1-12-1
TEL 042-585-1111(代)
FAX 042-581-2516

